

## 「かけ算(1) 新しい計算を 考えよう」

本単元で育成する資質・能力

課題解決力

1 日時 令和2年11月13日(金) 第5校時

2 学年 第2学年 21名

3 単元について

## 【単元観】

本単元で扱う乗法は、小学校学習指導要領には、以下のように位置づけられている。

## 第2学年【A数と計算】

(3) 乗法の意味について理解し、それをを用いることができるようにする。

ア 乗法が用いられる場合について知ること。

イ 乗法に関して成り立つ簡単な性質を調べ、それを乗法九九を構成したり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。

ウ 乗法九九について知り、1位数と1位数との乗法の計算が確実にできること。

## 【D数量関係】

(2) 乗法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができるようにする。

第1学年では、10のまとまりがいくつと数えてものの総数を求めたり、2とびや5とびでものの数を数えたりするなど、乗法の素地的な経験をしてきている。第2学年での本単元のねらいは、乗法が用いられる場面を通して、乗法の意味を理解できるようにすること、意味に基づいて乗法九九を構成したり、その過程で乗法九九について成り立つ性質に着目したりして乗法九九を身につけるようにすること、獲得した乗法九九を生活や学習の中で活用できるようにすることである。

## 【児童観】

学力に大きな課題のある児童への手立ての検証対象として、本学級ではA児を抽出している。

算数科の学習についてのアンケート(◎, ○, △, ×の4段階評価: 7月実施)によると、A児は、「自分から進んで勉強している。」「算数の授業は楽しい。」などのすべての問いに対して、◎をつけている。算数が分かるようになりたいと考え、努力していることが分かる。しかし、児童の様子を観察していると、主に以下の3点に課題があると考えられる。

① 数概念があいまいなこと。

・日常生活の中で数を数えたり数を使って遊んだりする経験が少ないことから、数を頭の中にイメージすることが難しく、簡単な繰り下がりのあるひき算なども指を使って行う。

② 問題文や指示文の読解が難しいこと。

・問題文や指示文の内容を頭の中でイメージすることが難しく、問題を捉え間違えていたり、題意に沿わない答え方をしたりする。

③ 学習内容を忘れてしまうこと。

・学習した後は、考え方や計算の仕方を覚えており、自分で問題を解くことができるが、時間が経つと「どうやってやるんだっけ?」と考え方や解き方を忘れてしまう。また、算数で使う用語も定着しきらない。

これらの課題があるため、授業中に、自分の考えに十分に自信を持てずにいるのではないかと推測する。乗法についてのレディネステストでは、5のまとまりを作る問題や3のまとまりが4つあるものの総数を求める問題は正解していたが、5のまとまりがいくつあるかを問われた問題では、まとまりの数ではなく、ものの総数を答え、題意に沿わない答え方をしていた。

本単元でも、まとまりを作って総数を求める問題は理解し、正しく計算できると予想される。しかし、文書を読んでも、頭の中で具体的な数や問題場面、指示の内容をイメージできないことから、

学習内容を理解できずに混乱したり、「1つ分の数」「いくつ分の数」「かけられる数・かける数」のような乗法で使う用語を忘れてしまったり、かけ算九九を忘れてしまったりすることが予想される。

### 【指導観】

本校では、研究主題「仲間と協力して、課題解決に意欲的に取り組む児童の育成」に向け、全校及び低学年の重点取組を次の通り設定している。

|     |   |   |
|-----|---|---|
| 全校  | ①「授業のユニバーサルデザイン化」を図り、学習に大きな課題のある児童を含む全員にとって、参加と理解がしやすい授業となるようにする。 | ②「授業に生かす家庭学習」の仕方について、各学年の発達段階や個の実態に応じた指導の充実を図り、児童自ら、自分に合った内容や方法を自分で選択しながら、次の授業につながる家庭学習ができるようにする。 |
| 低学年 | ①教材にしかけ（選択肢を作る・隠す・間違えるなど）を作り、全員が参加したくなり、理解につながる授業を行う。             | ②出たものに取り組む段階<br>宿題で出されたものを、もう一度するのも自主学習と位置づけ、調べ学習やクイズづくりをするなど、意欲付けながら取り組ませる。                      |

A児の予想されるつまずきに対しては、これらの重点取組を踏まえ、次のように手立てを講じる。

(1) 問題場面や式と答えの数について、より具体的なイメージがしやすいように、問題設定について次のような工夫と配慮を行う。

①児童にとって、より身近な場面で考えさせる。

単元の導入では、教科書の「遊園地の乗り物」の場面も身近ではあるが、児童の生活経験により近づけるために、「生活科でおもちゃの車を作る」場面を設定する。班のみんな（3人組）のおもちゃの車を作るために、車のタイヤになるペットボトルのキャップは何個必要かを考えさせ、児童の生活とかけ算を繋げていく。

②写真や絵・図を活用し、問題場面や数を理解させる。

A児は文章から具体的な場面や数をイメージすることが難しいため、写真や絵を使って問題場面のイメージをもたせる。また、具体的な数を視覚的に捉えるために図に表すようにする。また、「かけられる数（1つ分の数）」「かける数（いくつ分の数）」の数を変えて数の混乱がないように配慮していく。

(2) 学習内容について実感をもって参加できるように、授業につながる家庭学習を設定する。

①学校・家・買い物先の中から、かけ算に表せる場面を見つける家庭学習を設定する。

生活とのつながりを意識させるために、家庭学習で、身の周りからかけ算に表せる場面を見つけさせる。そして、授業中にそれらを生かす場面を設定するとともに、次の家庭学習への意欲をもてるように丁寧に評価を行う。家庭学習をする際には、児童が書き方に迷わないために、全員共通のワークシートを用いるようにする。

②学習後は、授業を振り返らせる復習的な家庭学習を設定する。

今日の授業を振り返るために過度の負担にならないようにするとともに、授業のポイントを捉えさせるために、復習用のワークシートを用いる。

(3) 九九を確実に覚えるために、「九九本」や「九九唱え書きカード」を活用する。

①「九九本」について

九九本は、九九の答えを隠さず、式と一緒に示し、式と答えを視覚で一度に捉えて覚えられるよう工夫している。また、数字の読み方を2種類書き、児童に唱え方を選ばせるようにしている。（ $3 \times 8 =$  にじゅうしち？ にじゅうし？ と混乱する児童がいるため、 $3 \times 8 =$  にじゅうよん と唱えて、混乱しないよう工夫してもよいことにした。）

九九本は、九九カードのように答えを当てるために使うのではなく、九九の式と答えを一度に目で見て確認したり、自分の九九の唱え方で何度も音読したりするために使うようにしている。そうすることで、答えの覚え間違いや唱え間違いを減らそうと考えている。

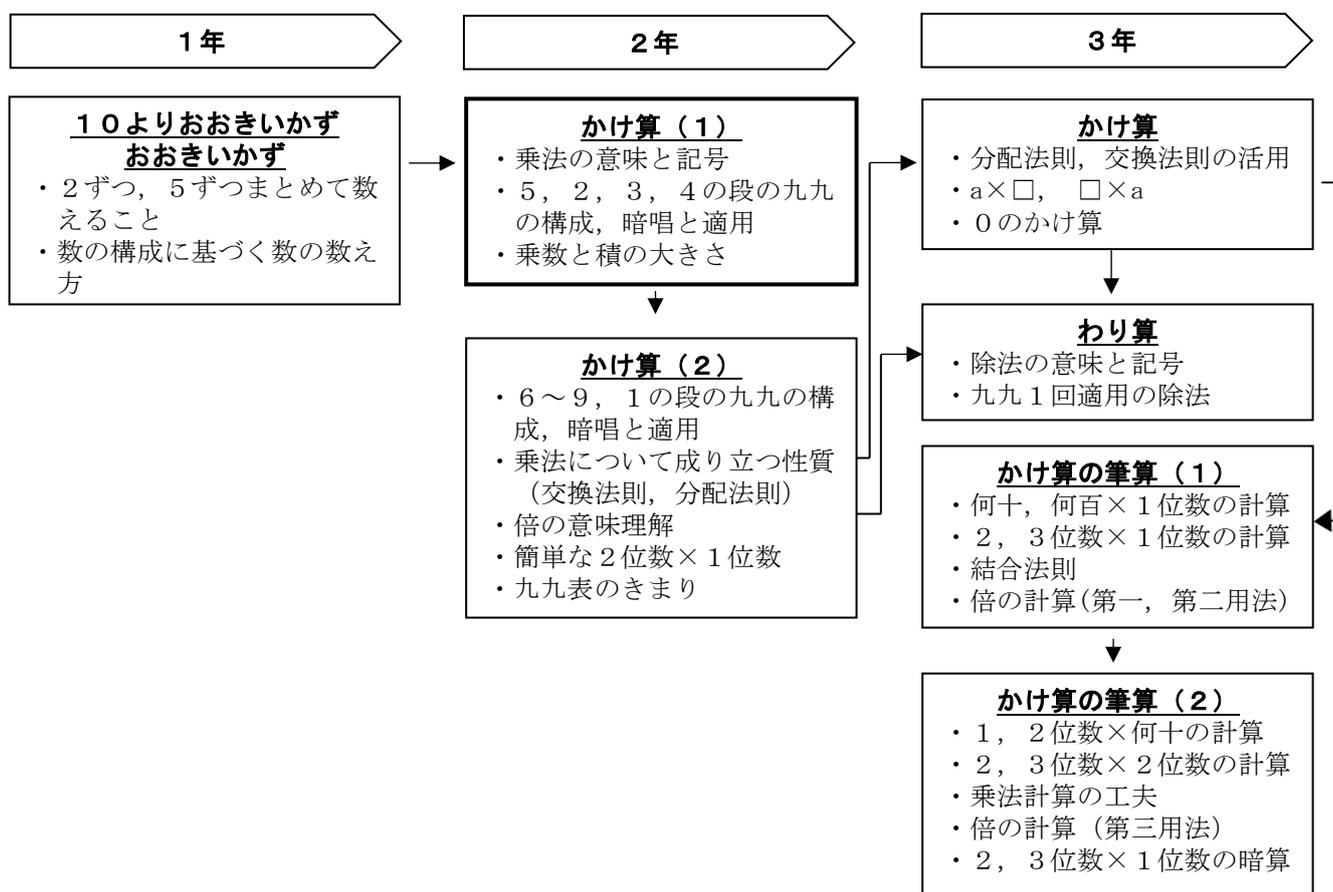
② 「九九唱え書きカード」について

自分の唱え方で九九を言いながら、数を書いていくカードである。「九九唱え書きカード」に取り組む際は、九九本を見ながら正確に九九を唱えたり、書き間違いのないように数を書いたりするよう声掛けを行っている。毎日宿題に出し、九九の唱えと式とのマッチングを図る。

③ 「九九本」と「九九唱え書きカード」の保護者連携について

保護者には、通信で九九本の工夫や九九唱え書きカードのねらいと取り組み方を知らせ、九九の指導に対する理解と協力を得るようにした。

#### 4 単元の学習の系統性



## 5 単元の目標

○乗法の意味について理解し、計算の意味や計算の仕方を考えたり乗法に関して成り立つ性質見いだしたりする力を養うとともに、計算方法などを数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。

## 6 評価規準

| 知識・技能   | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度   |
|---|---|---|
| 乗法が用いられる場合や乗法九九について知り、乗法の意味や乗法に関して成り立つ性質（乗数が1ずつ増えるときの積の増え方や交換法則）を理解し、乗法が用いられる場面を絵や図、言葉、式で表したり、乗法九九（5, 2, 3, 4の段）を構成し、確実に唱えたりすることができる。 | 数量の関係に着目し、累加の考えや乗数と積の関係などを基に、乗法九九の構成の仕方を考え表現している。 | 数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理や乗法のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。 |

## 7 本単元において育成したい資質・能力】 **課題解決力**

| 育成したい資質・能力 | 育成したい資質・能力が本単元の学習において発揮されている姿                                   |
|------------|---|
| 課題解決力      | ・乗法の意味や乗法に関して成り立つ性質を理解し、乗法が用いられる場面を絵や図、式、言葉で表しながら課題解決をすることができる。 |

## 8 指導計画（全22時間 本時第21時）

| 授業につながる<br>家庭学習                                  | 次          | 時 | 主な学習活動  | 知 | 思 | 態  | 評価規準                                     |
|--|------------|---|---|---|---|--|--|
| ○「おもちゃの車」作りで1台の車を作るためには、ペットボトルのキャップが4個必要なことに気付く。 |            |   | 生活科【課題設定】<br>おもちゃの車を作るために、車のタイヤになるペットボトルのキャップを3人分（班の人数分）集めよう。<br>○生活科で「タイヤが4つ、3人分必要」という場面を作り、身近な生活とかけ算とつなげ、新しい計算と出会わせる。 |   |   |  |  |
|  | 第一次<br>かけ算 | 1 | 【情報の収集】<br>○遊園地の乗り物の中から、同じ人数ずつ乗っているものを探して、1台に○人ずつ△台分で□人のように表す。<br>○かけ算の用語や意味、式を知る。                                      |   |   | ○  | ・ものの全体の個数を、「1つ分の数」の「いくつ分」ととらえ、数えようとしている。 |
|  |            | 2 |   |   | ○ | ・数量の関係に着目し、数量を「1つ分の数」の「いくつ分」ととらえ、説明している。 |  |
| ○第1・2時の復習問題                                      |            |   |   |   |   |  |  |

|  |    |   |  |   |   |   |   |  |
|--|----|---|--|---|---|---|---|--|
| に取り組む。                                     |    | 3   | 【整理・分析】<br>○遊園地の絵を見て、乗法の式に表せる場面を、式に表す。         | ○   |   |   | ・乗法は、1つ分の数の大きさが決まっている時に、そのいくつかにあたる大きさを求める場合に用いられることを理解している。 |  |
| ○第3時の復習問題に取り組む。                            |    | 4   | 【整理・分析】<br>○与えられた乗法の式になるようにはじきを並べる。            |   | ○ |   | ・具体物のまとまりに着目し、乗法が用いられる場面を式やおはじきで表し説明している。                   |  |
| ○第4時の復習問題に取り組む。                            |    | 5   | 【情報の収集】<br>○乗法の式に表し、答えを累加で求める。                 | ○   |   |   | ・乗法の答えは、被乗数を乗数の数だけ累加して求められることを理解している。                       |  |
| ○第5時の復習問題に取り組む。                            |    | 6   | 【情報の収集】<br>○2つ分、3つ分、4つ分のことを2倍、3倍、4倍ということを知る。   | ○   |   |   | ・倍の意味を知り、ある量の何倍かにあたる量を求めるときもかけ算を用いることを理解している。               |  |
| ○第6時の復習問題に取り組む。                            |    | 7   | 【まとめ・創造・表現】<br>○身の回りから、乗法の式になるものを探し、絵・言葉・式に表す。 |   | ○ | ○ | ・学習内容を適切に活用して筋道立てて考え、問題を解決している。<br>・学習内容を生活に生かそうとしている。      |  |
| ○家やスーパーマーケットなどで、「○こずつ、○つ分」で数えられるものを見つけてくる。 |    | 第二次<br>2の<br>だん<br>・<br>5の<br>だん<br>の<br>九九 | 8  | 【情報の収集】<br>○5のいくつかの大きさを求めて、5の段の九九を構成する。   | ○ |   |   | ・5の段の九九の構成の仕方を理解し、構成することができる。            |
| ○5の段の九九を教科書や九九本で調べてくる。                     |    |   | 9  | 【情報の収集】 【整理・分析】<br>○九九の用語と意味を理解する。<br>○5の段の九九の唱え方を知り、正しく答えたり、答えが5ずつ増えていることを理解したりする。 | ○ |   |   | ・5の段の九九を確実に唱えることができ、それを用いて問題を解決することができる。 |
| ○自分の唱え方で5の段を覚えてくる。                         | 10 |   | 【まとめ・創造・表現】<br>○5の段の九九を活用して、問題を解く              |   |   |   |   |  |
| ○5の段を活用して解く問題をアレイ図と式を使って解いてくる。             | 11 |   | 【情報の収集】<br>○2のいくつかの大きさを求めて、2の段の九九を構成する。        | ○   |   |   | ・2の段の九九の構成の仕方を理解し、構成することができる。                               |  |
| ○2の段の九九を教科書                                |    |   |  |   |   |   |   |  |

|                                |   |    |  |   |   |  |  |
|--------------------------------|---|----|--|---|---|--|--|
| や九九本調べてくる。                     |   | 12 | <b>【整理・分析】</b><br>○2の段の九九の唱え方を知り、正しく答えたり、答えが2ずつ増えていることを理解したりする。            | ○ |   |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2の段の九九を確実に唱えることができ、それを用いて問題を解決することができる。</li> </ul>   |
| ○自分の唱え方で2の段を覚えてくる。             |   | 13 | <b>【まとめ・創造・表現】</b><br>○2の段の九九を活用して、問題を解く。                                  |   |   |  |  |
| ○2の段を活用して解く問題をアレイ図と式を使って解いてくる。 | 第三<br>次<br>3<br>の<br>だ<br>ん<br>・<br>4<br>の<br>だ<br>ん<br>の<br>九<br>九 | 14 | <b>【情報の収集】</b><br>○3のいくつかの大きさを求めて、3の段の九九を構成する。<br>○かけられる数、かける数の用語と意味を理解する。 | ○ | ○ |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・乗法について成り立つ性質を用いて、3の段の九九の構成の仕方を考え、説明している。</li> <li>・3の段の九九の構成の仕方を理解し、構成することができる。</li> </ul> |
| ○3の段の九九を教科書や九九本で調べてくる。         |   | 15 | <b>【整理・分析】</b><br>○3の段の九九の唱え方を知り、正しく答えたり、答えが2ずつ増えていることを理解したりする。            | ○ |   |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・3の段の九九を確実に唱えることができ、それを用いて問題を解決することができる。</li> </ul>   |
| ○自分の唱え方で3の段を覚えてくる。             |   | 16 | <b>【まとめ・創造・表現】</b><br>○3の段の九九を活用して、問題を解く。                                  |   |   |  |  |
| ○3の段を活用して解く問題をアレイ図と式を使って解いてくる。 |   | 17 | <b>【情報の収集】</b><br>○4のいくつかの大きさを求めて、4の段の九九を構成する。                             | ○ |   |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・4の段の九九の構成の仕方を理解し、構成することができる。</li> </ul>  |
| ○4の段の九九を教科書や九九本で調べてくる。         |   | 18 | <b>【整理・分析】</b><br>○4の段の九九の唱え方を知り、正しく答えたり、答えが4ずつ増えていることを理解したりする。            | ○ |   |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・4の段の九九を確実に唱えることができ、それを用いて問題を解決することができる。</li> </ul>   |
| ○自分の唱え方で4の段を覚えてくる。             |   | 19 | <b>【まとめ・創造・表現】</b><br>○4の段の九九を活用して、問題を解く。                                  |   |   |  |  |
| ○4段を活用して解く問題をアレイ図と式を使って解いてくる。  |   | 20 | <b>【整理・分析】</b><br>○問題作りを通して、かけ算の意味を見直す。                                    |   | ○ |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○数量の関係に着目し、乗法の用いられる場面をとらえ、図や言葉や式で説明している。</li> </ul>   |
| ○21時の予習プリントに取り組む。              |   | 21 | <b>【まとめ・創造・表現】</b>   |   |   |  |  |

|                    |     |    |                                 |   |  |                     |
|--------------------|-----|----|---------------------------------|---|--|---------------------|
| ○自分で、乗法の問題作りをしてくる。 | まとめ | 本時 | ○2種類の鉛筆を配る問題に取り組む。              |   |  |                     |
|                    |     | 22 | 【まとめ・創造・表現】<br>○「たしかめよう」の問題を解く。 | ○ |  | ・基本的な問題を解決することができる。 |

## 9 本時の展開

### (1) 本時の目標

乗法の用いられる2つの場面の違いをとらえ、場面に合った式を選んだり、図や言葉をもとにその式にした理由を説明したりすることができる。

### (2) 本時の評価規準

・数量の関係に着目し、乗法の用いられる場面をとらえ、図や言葉や式で説明している。

【思考・判断・表現】

・乗法が用いられる場面を絵や図、式、言葉、式で表しながら課題解決をすることができる。

【課題解決力】

### (3) 準備物

板書用掲示物（問題文、挿絵、図）、ワークシート

(4) 学習過程

|   | 学習活動，児童の反応（・）  | 指導上の留意点（◇）<br>「支援を要する」状況と判断した児童への指導の手立て（◆）             | 評価規準<br>(評価方法)                                  |                   |  |   |  |  |   |   |   |   |   |  |  |  |                 |                 |  |
|---|--|--|---|-------------------|--|---|--|--|---|---|---|---|---|--|--|--|-----------------|-----------------|--|
| <p>既習・既知・ズレ・妨げ</p> <p>課題の生み出し</p> <p>見方・考え方の共有</p>  | <p>1 家庭学習で取り組んだ問題から，学習課題を作る。</p> <table border="1" data-bbox="199 360 724 562"> <tr> <td data-bbox="199 360 456 562"> <p>① えんぴつを 1人に2本，同じように5人にくばります。えんぴつは，ぜんぶで何本 ありますか。</p> </td> <td data-bbox="456 360 724 562"> <p>② えんぴつを 2人に5本ずつくばります。えんぴつは，ぜんぶで何本 ありますか。</p> </td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>宿題でした問題の式は分かる。</li> <li>もうひとつの問題は分からないな。</li> <li>2つの問題とも式が分かるよ。</li> </ul> <p>2 めあてを確認する。</p> <p>㊟ もんだいに合ったしきを見つけよう。</p> <p>3 見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>式を見つけるためには，図や言葉を使うとよかったな。</li> </ul> <p>4 1人で課題解決に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3枚のカードをこのように分けよう。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="231 1361 657 1547"> <tr> <td data-bbox="231 1361 443 1435"> <p>① 2本ずつ，5人分</p> </td> <td data-bbox="443 1361 657 1435"> <p>② 図 </p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="231 1435 443 1547"> <p>しき <math>2 \times 5 = 10</math><br/>答え 10本</p> </td> <td></td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>①は図，②は，言葉と式が無いな。カードがないところがあるな。空いているところは，自分で書こう！</li> </ul> <p>5 ペアで考えを共有する。</p> | <p>① えんぴつを 1人に2本，同じように5人にくばります。えんぴつは，ぜんぶで何本 ありますか。</p> | <p>② えんぴつを 2人に5本ずつくばります。えんぴつは，ぜんぶで何本 ありますか。</p> | <p>① 2本ずつ，5人分</p> | <p>② 図 </p> | <p>しき <math>2 \times 5 = 10</math><br/>答え 10本</p> |  | <p>◇問題①，②のどちらかを家庭学習で取り組ませておき，自分の考えを持たせておく。</p> <p>◆家庭学習で取り組んだ問題を思い出したり，新しい問題を捉えたりするために問題を声に出して読ませる。</p> <p>◇2つの問題の式と答えが書いてあるカードを用意し，指導者がどちらの問題のものか分からなくなるふりをしてめあてに繋げる。</p> <table border="1" data-bbox="804 748 1193 920"> <tr> <td data-bbox="804 748 999 831"> <p>しき <math>2 \times 5 = 10</math><br/>答え 10本</p> </td> <td data-bbox="999 748 1193 831"> <p>しき <math>5 \times 2 = 10</math><br/>答え 10本</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="804 831 999 920"> <p>しき <math>1 \times 2 = 2</math><br/>答え 2本</p> </td> <td data-bbox="999 831 1193 920"> <p>しき <math>2 \times 1 = 2</math><br/>答え 2本</p> </td> </tr> </table> <p>◆児童が考えやすいように，2つの問題の図・言葉の書かれているカードも用意しておく。</p> <table border="1" data-bbox="772 1070 1230 1256"> <tr> <td data-bbox="772 1070 1094 1133"> <p>図 </p> </td> <td data-bbox="1094 1070 1230 1133"> <p>図 </p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="772 1133 1050 1196"> <p>図 </p> </td> <td data-bbox="1050 1133 1230 1196"> <p>図 </p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="772 1196 943 1256"> <p>2本ずつ，5人分</p> </td> <td data-bbox="943 1196 1230 1256"> <p>5本ずつ，2人分</p> </td> </tr> </table> <p>◆上のカードの内，1人に3枚配り，どちらの問題を表すカードか考えさせる。(席が隣の児童は，同じカードの組み合わせになるように配る。)</p> <p>◇カードが無いところは，自分で書くように促し，児童に思考させる。</p> <p>◇隣のペアでワークシートを見せ合い，考えの相違点を見つけ，間違っている場合は教え合いをする。</p> <p>◆ペアで考えがまとまらない場合は，ペア以外の友達のところへ聞きに行ってもよいことにする。</p> | <p>しき <math>2 \times 5 = 10</math><br/>答え 10本</p> | <p>しき <math>5 \times 2 = 10</math><br/>答え 10本</p> | <p>しき <math>1 \times 2 = 2</math><br/>答え 2本</p> | <p>しき <math>2 \times 1 = 2</math><br/>答え 2本</p> | <p>図 </p> | <p>図 </p> | <p>図 </p> | <p>図 </p> | <p>2本ずつ，5人分</p> | <p>5本ずつ，2人分</p> |  |
| <p>① えんぴつを 1人に2本，同じように5人にくばります。えんぴつは，ぜんぶで何本 ありますか。</p>  | <p>② えんぴつを 2人に5本ずつくばります。えんぴつは，ぜんぶで何本 ありますか。</p>  |  |   |                   |  |   |  |  |   |   |   |   |   |  |  |  |                 |                 |  |
| <p>① 2本ずつ，5人分</p>   | <p>② 図 </p>   |  |   |                   |  |   |  |  |   |   |   |   |   |  |  |  |                 |                 |  |
| <p>しき <math>2 \times 5 = 10</math><br/>答え 10本</p>   |  |  |   |                   |  |   |  |  |   |   |   |   |   |  |  |  |                 |                 |  |
| <p>しき <math>2 \times 5 = 10</math><br/>答え 10本</p>   | <p>しき <math>5 \times 2 = 10</math><br/>答え 10本</p>  |  |   |                   |  |   |  |  |   |   |   |   |   |  |  |  |                 |                 |  |
| <p>しき <math>1 \times 2 = 2</math><br/>答え 2本</p>   | <p>しき <math>2 \times 1 = 2</math><br/>答え 2本</p>  |  |   |                   |  |   |  |  |   |   |   |   |   |  |  |  |                 |                 |  |
| <p>図 </p> | <p>図 </p>   |  |   |                   |  |   |  |  |   |   |   |   |   |  |  |  |                 |                 |  |
| <p>図 </p>  | <p>図 </p>   |  |   |                   |  |   |  |  |   |   |   |   |   |  |  |  |                 |                 |  |
| <p>2本ずつ，5人分</p>   | <p>5本ずつ，2人分</p>  |  |   |                   |  |   |  |  |   |   |   |   |   |  |  |  |                 |                 |  |

6 全体で考えを共有する。

1

2

残った誤答

7 本時の学習をまとめる。

- 1つ分を見つける。
- 動きをやってみて考える。
- 図をかいて何が何こか考える。
- 問題文を変身させて考える。
- 順番に式にするのはいけない。

8 適用問題をする。

○問題文に合った図や式を選ぶ問題と、式に合った問題文を作る問題のどちらかを選んで取り組む。

もんだいに合うものをえらぶ！ 名前 ( )

1 下の もんだいに 合っているものをえらんで、**アイウ**を○で かこみましょう。

みかんが入った ふくろが 3ふくらあります。  
みかんは どのふくらにも 4こ入っています。  
みかんは、ぜんぶで 何こ ありますか。

① もんだいに 合った 図は どれでしょう。

ア イ ウ

② もんだいに 合った ことばは どれでしょう。

ア 4こずつ, 3ふくら イ 3こずつ, 4ふくら分 ウ 3ふくら, 1ふくら分

③ もんだいに 合った しきは どれでしょう。

ア しき  $3 \times 4 = 12$  答え 12こ イ しき  $3 \times 1 = 3$  答え 3こ ウ しき  $4 \times 3 = 12$  答え 12こ

☆チャレンジもんだい！

①できる人は、図に数やたいを書きかえよう。

②もんだい文を分かりやすくへんしんさせて、書こう！

9 本時の振り返りをする。

◇黒板の短冊を児童に分けさせ、残った誤答に着目させる。

◆問題文に合わせて動作化を行い、問題場面と図、式が合っているかを確認する。

◇問題文の順番を入れ替えても場面は変わらないことを確かめ、問題に出てくる順番にとらわれてはいけないことをおさえる。

◇問題に合った式を見つけるために、どんなことをしたかを振り返り、まとめとする。

◆一人一人の状況を見取り、個に応じた絵をかいて考えさせたり、ことば・図・式を1つずつ確かめさせたりする。

しきに合う もんだいをつくる！ 名前 ( )

1 □に 数を入れて、 $4 \times 3$ の しきになる もんだいをつくりましょう。

みかんが □こずつ 入っている ふくろが、□ふくら あります。 みかんは、ぜんぶで 何こ ありますか。

しき  $4 \times 3 =$   
答え

2 □に 数を入れて、 $3 \times 4$ の しきになる もんだいをつくりましょう。

みかんが □こずつ 入っている ふくろが、□ふくら あります。 みかんは、ぜんぶで 何こ ありますか。

しき  $3 \times 4 =$   
答え

☆チャレンジもんだい！

$4 \times 5$ の しきになる もんだいを じぶんで かんがえて つくってみよう。

◇自分の本時の学習を3段階で評価させ、その理由を記述させる。

◇本時の学習を評価し、家庭学習への意欲付けを行う。

・数量の關係に着目し、乗法の用いられる場面をとらえ、図や言葉や式で説明している。

【思考・判断・表現】  
(観察・ノート)

・乗法が用いられる場面を絵や図、式、言葉、式で表しながら課題解決をすることが出来る。

【課題解決力】

まとめ

練習

振り返り

### (5) 板書計画

|   |  |   |  |
|---|--|---|--|
| <p>11/13 かけ算</p> <p>㊦ もんだいに合ったしきを見つけよう。</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 100px; margin: 20px auto; text-align: center; line-height: 100px;">カード</div> | <p>① えんぴつを 1人に2本、同じように5人にくばります。えんぴつは、ぜんぶで何本 ありますか。</p> <p>☒</p>  <p>2本ずつ, 5人分</p> <p>しき <math>2 \times 5 = 10</math><br/>答え 10本</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">2本ずつ, 5人に<br/>鉛筆を配っている絵</div> | <p>② えんぴつを 2人に5本ずつ くばります。えんぴつは、ぜんぶで何本 ありますか。</p> <p>☒</p>  <p>5本ずつ, 2人分</p> <p>しき <math>5 \times 2 = 10</math><br/>答え 10本</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">5本ずつ, 2人に<br/>鉛筆を配っている絵</div> | <p>㊦ もんだいに合ったしきを見つけるためには、何(1つ分の数)がいくつ(いくつ分の数)あるかに注目するとよ</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; text-align: center; line-height: 100px;">適用題</div> |
|---|--|---|--|

### (6) 本時における個の課題に応じた手立て

#### ●A児

|  |   |
|--|---|
| <p>本時で予想されるつまずき</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1つ分の数やいくつ分の数を考えずに、問題に出てきた数字の順に式を書き、間違ふ。</li> <li>・問題文だけでは、問題場面の違いをとらえられず、1つ分の数といくつ分の数が反対になっていることに気付かない。</li> </ul>   | <p>つまずきの要因</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題文から具体的な数や場面をイメージできない。</li> <li>・「1つ分の数」「いくつ分」などの乗法で使う用語や用語の意味を忘れてしまう。</li> </ul> |
| <p>手立て</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①具体的なイメージをもたせるために、鉛筆5本を手元に用意させたり、鉛筆を配る絵を用意したりする。</li> <li>②家庭学習で問題を解いてくることで、問題場面や立式への見通しがもてるようにする。</li> <li>③☒やことば、式のカードを用いて、どちらの問題のものかを選ばせるようにすることで、問題に合った☒やことばや式を考える活動に参加しやすくする。</li> <li>④これまでの学習内容を教室に掲示し、いつでも学習を振り返ることができるようにする。</li> </ol> |   |

### (7) 予習ワークシート

かけ算プリント 名前 ( )

① 下のもんだいを ことばや図、しきをつかって、ときましょう。

㊦ えんぴつを 1人に 2本、同じように 5人にくばります。  
えんぴつは、ぜんぶで 何本 いらいますか。

図

ことば \_\_\_\_\_ 本ずつ、 \_\_\_\_\_ 人分

しき \_\_\_\_\_

答え \_\_\_\_\_

かけ算プリント 名前 ( )

① 下のもんだいを ことばや図、しきをつかって、ときましょう。

㊦ えんぴつを 2人に 5本ずつ くばります。  
えんぴつは、ぜんぶで 何本 いらいますか。

図

ことば \_\_\_\_\_ 本ずつ、 \_\_\_\_\_ 人分

しき \_\_\_\_\_

答え \_\_\_\_\_

### (8) 本時ワークシート

|  |                       |   |
|--|-----------------------|---|
| <p>かけ算ワークシート</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p><b>1</b> えんぴつを 1人に 2本、5人に 同じように くばります。<br/>えんぴつは、ぜんぶで 何本 いらいますか。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; width: 250px; height: 100px; margin-bottom: 5px; position: relative;"> <p style="position: absolute; top: 5px; left: 5px;">図</p> </div> <p>ことば _____</p> <p>しき _____</p> | <p>どっちかな?<br/>← →</p> | <p>名前 ( )</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p><b>2</b> えんぴつを 2人に 5本ずつ くばります。<br/>えんぴつは、ぜんぶで 何本 いらいますか。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; width: 250px; height: 100px; margin-bottom: 5px; position: relative;"> <p style="position: absolute; top: 5px; left: 5px;">図</p> </div> <p>ことば _____</p> <p>しき _____</p> |
|--|-----------------------|---|